

第 646 回：【4 年生向け】卒論に向けて自分の執筆方法を考える

みなさんこんにちは。水曜日担当の MS です。卒論の締め切りがだんだんと近づいていきますね。そこで今回は、卒論執筆に向けて、書くという行為を見直すことを皆さんにご紹介します。すなわち、何を書くか、というよりどのように書くか、という側面から卒論に迫ります。自分の執筆方法を考える、または見直す具体的な方法を 3 つ紹介いたします。

一つ目に、自分の執筆しやすい場所を作ることです。みなさんは普段いつ、どこで卒論の執筆をしていますか。自宅、図書館、カフェ、通学途中など、様々な場所・時間が挙げられるかと思います。人目の有無、騒音の有無、情報収集の難易度の差など、それぞれの執筆する場所には長所と短所があるうえ、みなさん一人一人で好みの違いがあると思います。効率の面から、みなさん一人一人にとって卒論を一番書きやすい場所を見つけておくことをおすすめします。

二つ目に、自分の執筆ペースを把握することです。これも様々な要因によって、それぞれ違ってくるかと思います。パソコンだとタイピングの習熟によって速度の違いが出てくるかもしれませんし、最近だと音声入力で執筆されているという事例もあるかもしれません。いずれの場合も、締め切りに間に合わせるために重要になるのは、自分が一日にどれだけ卒論の下書きを完成させられるかです。具体的な計測方法として、一日の進捗を記録することをおすすめします。私は現在英語で修士論文を執筆していて、書き始めてから毎日進捗を記録し続けてきました。すると、一日にだいたい 1000 語から 1500 語程

度、多い日だと 2000 語程度執筆できていることが判明しました。このように、自分の平均的な執筆ペースを把握しておけば、そこから逆算していつから書き始めたらいいかの目星をつけられます。

三つ目に、自分の執筆への態度を把握することです。時間をかけて完成度の高い文を書く方もいれば、時間をかけずに大量の文を書いた後に削除・修正する方もいるでしょう。私は後者寄りで、一行一行に何時間もかけて書いていっても間に合わないうえ、下手な文章を書くほうが、そもそも書かないことよりも価値のあることだと思っています。それを指導教員に添削をしてもらって、いただいたコメントをもとに自分の書き方を見直していくというのが自分の全体的な執筆態度と考えています。ここで「指導教員に何を押し付けているのか」や「駄文を見せて恥ずかしいのか」など異論があっても当然だと思いますが、みなさんはいかがでしょう。同意であれ、反対であれ、意見を持てることはみなさんが執筆にたいして態度を持っていることを意味します。自分がどのように卒論の執筆を進めていくかに大きな影響を与えます。

このように、自分がどのように書くかを把握しておくことで、所要時間等を見越して、効率的に安心して執筆することができます。執筆が滞ったときは、一度自分自身の執筆環境や態度を見直してみてもいいでしょう。それでは。